

# 体への負担を極力減らした 早期復帰可能な人工関節置換術を実施

関節軟骨の磨耗を原因とする変形性股関節症などの関節疾患に対して、人工関節置換術は人工関節を埋め込むことで痛みを取り除いて可動域を回復させる。この手技において、辻整形外科クリニックの辻俊一理事長は、負担の少ないMIS（最小侵襲手術）に早期から着目し、現在ではほとんどの症例に対して行っている。

## 筋肉を傷つけないことで 早期の回復を可能に

辻理事長は、2007年11月に股関節と膝関節の合計で121例の人工関節置換術を行った。同手術を始めてから現在までの症例数は3000例に近い。現在では、ほとんどの症例において、手術の際にできる

傷の小さい手術を行っていると。これは、「一般的にMIS（最小侵襲手術）と呼ばれる手法で、術後の痛みや外見への影響を抑えられるという利点がある。

しかし、「MISの本質は筋肉を傷つけずに手術するというところにあります。傷を小さくする限度は、治療効果を最大にする範囲にとどめるべきなので、

実際には極小侵襲手術と呼ぶのが正しいでしょう」と辻理事長は述べ、筋肉を傷つけないことを重視した手法を工夫し、実行している。筋肉を傷つけないければ、手術翌日から全荷重歩行訓練を開始可能。股関節疾患に対しては2002年からMISを行い、その有用性が確認できてから膝関節疾患に対して

も行うようになったという。より正確に行うために全手術を直視下で行う



個人個人に適した人工関節置換術を行うために患者との対話を重視し、日常生活スタイルを十分に確認する

も行うようになったという。

## より正確に行うために 全手術を直視下で行う

こうした手術は厳密な処置が求められるため、辻理事長は直視下で行うことを重視している。例えば、人工股関節置換術は、股関節の前方もしくは後方から切開するが、辻理事長はすべての手術を前方からの切開で行う。「股関節は体の前方を向いているため、前方から行うことですべてを直視するようにしています」。さらに、手術創を股関節の曲がる方向と反対にすることで、合併症の脱臼を起りにくくしているという。

直視下ならば手術において細かい調整も可能。個人個人の生活パターンによって関節の曲

クリニック外観



げ方や使用頻度は大きく異なるため、それに適するように向きなどを変えて人工関節を埋め込む。「現在では適切な手術を受けければ、人工関節を20年保たせることも期待できます」と辻理事長。そのためには、患者に合わせた人工関節や手法を適切に選び、正確な手術を心がけている。

取材／鈴木健太

## 辻 俊一 理事長

1975年に金沢大学附属高校、81年に金沢大学医学部を卒業し、同大学附属病院整形外科に入局。86年にミネソタ大学整形外科へ人工股関節と人工膝関節の臨床留学。88年に金沢大学大学院卒業、医学博士号取得。93年に辻整形外科クリニック開院。病院ホームページにて手術に関する情報を詳細にまとめている。日本整形外科学会認定 整形外科専門医



人工股関節(左)と人工膝関節(右)のレントゲン画像。埋め込む人工関節は数多くの機種の中から個々の患者に適したものを選んでいる



人工関節置換術後の手術創。人工股関節置換術(左)は6~9cm、人工膝関節置換術(右)は8~9cmほどに傷の大きさをとどめている

## 医療法人社団 辻整形外科クリニック

診療科目：整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科  
 診療時間：平日 8:45~11:50 / 13:45~17:20  
 土 8:45~11:50  
 ※初診の受付は平日8:45~11:50  
 休診日：土(午後、第1・3・5は終日)・日・祝  
 〒921-8163 石川県金沢市横川5-191  
 TEL.076-280-0111  
<http://www.thosp.com/>